

地域と暮らしを守る！ 蝦夷梅雨と防災

例年5月下旬から7月上旬にかけて北海道を訪れる「蝦夷梅雨」。本州の梅雨とは異なり、しとしとと降り続く雨というよりは、低気圧の通過に伴うまとまった雨や、日中の気温上昇による大気の状態の不安定化によって突発的な強い雨が降りやすいのが特徴です。この特集では、蝦夷梅雨の特性を理解し、いざというときに備えるための防災情報をお届けします。

蝦夷梅雨の特性と本町の危険性

蝦夷梅雨は、本州の梅雨前線のような明確な停滞前線ではなく、オホーツク海高気圧の勢力や偏西風の蛇行など、複雑な気象条件によって引き起こされます。そのため、予測が難しい側面もありますが、次のような特徴が見られます。

・集中豪雨の発生

短時間に局地的な強い雨が降ることがあり、河川の急な増水や、土砂災害を引き起こす可能性があります。上ノ国町は、**天の川**、**石崎川**など複数の河川が流れており、これらの河川の増水には特に注意が必要です。

☆上ノ国町では水害対策として、**排水施設**を設置しています。

天の川や石崎川の水位が上昇し、逆流が発生したときに、排水施設を使用して河川の氾濫を防いでいます。

右の写真は排水施設の内部で、天の川からオナミの沢川に逆流してきた水を施設内の**ポンプ**で吸い上げ、**ホース**から排水します。



オナミの沢川排水施設

・長雨による地盤の緩み

継続的に雨が降ることで、地盤が緩み、**土砂災害**の危険性が高まります。特に、前年の積雪による雪解け水が影響し、例年よりも地盤が緩んでいる可能性がある場所もあります。



今からできる防災対策

① 情報収集を習慣に！

ご自身の住んでいる場所が、洪水や土砂災害の危険区域に指定されていないか、必ず確認しましょう。上ノ国町のハザードマップは、町ホームページで閲覧できるほか、住民課窓口でも配布しています。また、気象庁ホームページで災害の危険度が一目でわかる「キキクル」を提供し、防災アプリなどで自動的に通知を受け取ることもできるので、ぜひご利用ください。

上ノ国町
ハザードマップ➡



キキクル
(危険度分布) ➡



プッシュ型
通知サービス➡

